

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名	民政クラブ
代表者名	加藤学

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 6 年 8 月 2 日提出

活動年月日	令和 6 年 7 月 23 日 (火)	
氏名	井村伸幸、加藤嘉哉	
用務先 及び 内 容	1 7 月 23 日	用務先 愛知県あま市
		内 容 あま市民病院内 病児・病後児保育室の利用について
	2 月 日	用務先
		内 容
	3 月 日	用務先
		内 容
	4 月 日	用務先
		内 容
備 考		

● 政務活動視察調査報告書（No.政務-532）

委員会・会派名	井村伸幸、加藤嘉哉	報告者：井村伸幸									
視察日時	令和6年7月23日（火）13:00～15:00										
視察先・概要	愛知県あま市 ・人口 88,565人（R6年7月1日現在） ・世帯数 39,242世帯 ・面積 27.49km² 愛知県の西部に位置し、ほぼ全域が海拔ゼロメートル地帯。広大な濃尾平野とそこを流れる河川の恩恵を受けて、近郊農業を中心に発展。近年は名古屋市のベッドタウンとしても発展し、名古屋市の中心部から公共交通機関で約15分という立地条件にありながら、田園風景と住宅地との調和がとれた緑豊かなまちを形成。										
視察内容	あま市民病院内 病児・病後児保育室の利用について										
選定理由（目的）	核家族化が進み、共働き世帯が増える中、病児・病後児保育所の需要は高まっており、民間病院併設の病児保育施設だけでなく市民病院内に病児保育施設を開設しているあま市を調査。										
岡崎市の現状と課題	岡崎市には2019年9月より民間の小児科医院の協力により、市内初の病児保育室が開設されたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などから、現在も1施設のみ（病後児保育施設は3施設）。										
視察概要及び評価	1. あま市の病児・病後児保育施設開設の背景（経緯） ・第1期 あま市子ども・子育て支援事業計画（平成27年～平成31年）の中で、病児・病後児保育事業について、当時未実施の事業ながら、潜在ニーズがみられたことから、今後、医療機関と連携し、実施にむけた検討を始める（目標：5年間で1か所の病児保育所の開設）。 ・平成27年8月下旬から9月末にかけて、市職員が市内の小児科・内科医院全てを訪問し、病児保育所の開設について協力を要請。事業主旨や必要性については概ね理解いただくも、専用ルームや保育士の確保が難しいことから開設には至らず。 ・平成27年11月の「あま市民病院」の新築移転を契機に、市民病院内に病児・病後児保育室の開設にむけ準備し、平成28年10月より受入れ開始。 ・第2期 あま市子ども・子育て支援事業計画（令和2年～令和7年）の中で、市民病院内の病児・病後児保育室だけでなく、ニーズに適切に対応しながら施設を増加させることの検討を開始。 ・令和2年8月、あま市内で開業していた民間の「望月内科」が「もちづき内科&はるかこどもクリニック」として診療科目に小児科を併設し、リニューアル。その際に、病児・病後児保育施設を開設。 2. あま市の病児・病後児保育の実施状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th><th>運営主体</th><th>利用定員</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あま市民病院内 病児・病後児保育室</td><td>あま市</td><td>1日3名まで（※1）</td></tr> <tr> <td>ふたば病児保育室</td><td>もちづき内科&はるかこどもクリニック</td><td>1日6名まで</td></tr> </tbody> </table> ※1：開設時（平成28年度）は6名としていたが、令和4年度から民間医療機関の定員増に伴い、利用実績を踏まえ減員。		施設名	運営主体	利用定員	あま市民病院内 病児・病後児保育室	あま市	1日3名まで（※1）	ふたば病児保育室	もちづき内科&はるかこどもクリニック	1日6名まで
施設名	運営主体	利用定員									
あま市民病院内 病児・病後児保育室	あま市	1日3名まで（※1）									
ふたば病児保育室	もちづき内科&はるかこどもクリニック	1日6名まで									

【利用可能日時】 月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前 8 時 30 分～午後 5 時

【対象児童】 ○生後 6 か月から小学校 6 年生まで
○保護者の就労等のために家族で保育等ができない
○病気または病気の回復期にあり、医療機関による入院治療の必要はないが集団での保育等が困難で当面症状の急変が認められない

【預かることのできない児童】
感染力の強い麻疹（はしか）、水痘（みずぼうそう）、新型コロナウイルス感染症、流行性角結膜炎（はやり目）など、状態が重症な児童

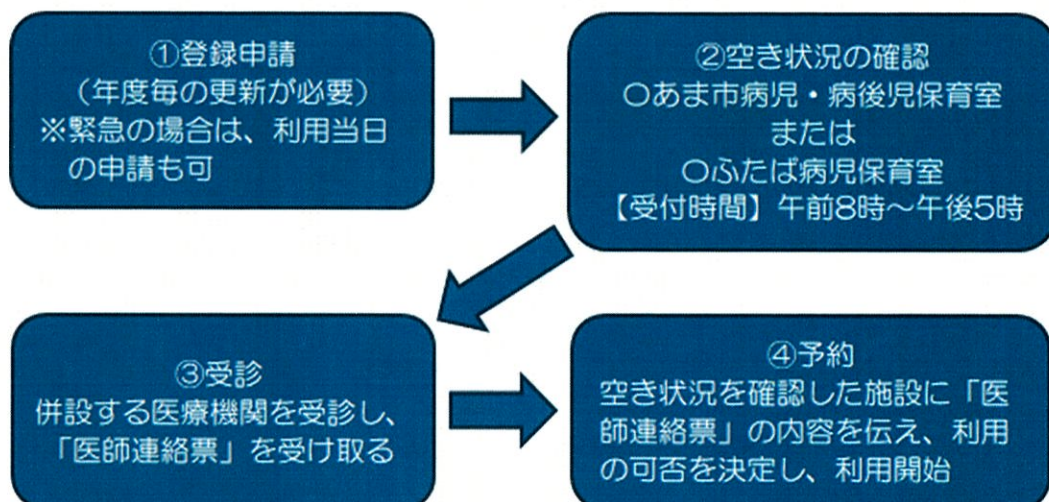
【利用料金】

利用料徴収区分	利用金額（日額）
市内在住者（市民税課税世帯）	2,000円
市内在住者（市民税非課税世帯）	1,000円
市内在住者（生活保護世帯）	0円
市外在住者（一律）	2,500円

3. 利用状況の推移

	登録者数	利用者数	
		市民病院	ふたば病児保育室
平成28年度	179人	76人	
平成29年度	151人	143人	
平成30年度	141人	163人	
令和元年度	160人	244人	
令和2年度	81人	16人	82人
令和3年度	172人	37人	301人
令和4年度	154人	15人	472人
令和5年度	294人	143人	823人

4. 利用の流れ



5. 視察中の Q&A（一部抜粋）

Q：保育室内の職員の有資格者は？

A：保育士 2 名と看護師 1 名の予算計上はしている。ただ、2 年ほど前より専任の看護師が不在となっており、保育課職員の中で看護師資格を有している者や市民病院内の看護師の協力をいただきながら運営している。



Q：保育士 2 名の採用は、市の正規職員か？

A：2 名の保育士は、当該病児・病後児保育施設の専任保育士として採用されている。しかしながら、毎日、施設の利用者がいるわけではないことから、市内各所の公共施設などでの病児・病後児保育所の PR 活動や市内公立保育園において保育士が不足している園に一時的に勤務してもらったりしている。

Q：平成 28 年より行われている事業だが、利用市民の反応は？

A：万が一のときに預けることができる施設があるのは安心できる（ありがたい）といった前向きな意見が多い。一方で、要望として勤務地によっては、お迎えがどうしても 17 時を過ぎてしまうので、預かり時間を 17 時半まで延長してほしいといった意見も出てきている。

Q：現在の課題は？

A：先ほども述べたが、看護師不足にみられるように有資格者の確保が一番の課題と考える。

Q：市民病院の職員向けの保育室はどうなっているのか？

A：市民病院の新規移転の時に、病児・病後児保育室を開設することから、市民病院職員のための院内保育園の必要性について、職員にヒアリングを実施。医師、看護師からは院内保育園を必要とする声が無かったことから院内保育園は開設せず。



Q：トヨタ系の企業は祝日は出勤日のため、祝日の開所を望む声はないか？

A：開設してから 8 年がたつが、祝日開所についての要望は聞いておらず、今のところ、民間（ふたば病児保育室）との兼ね合いからも祝日開所の予定はない。

Q：利用の流れの中で、空き状況を確認したときは、空きがあったにも関わらず医師の診察を受けている間に、空きが埋まってしまうようなことはないか？

A：空き状況を確認した時点で仮予約という状態になるため、心配されるような事態は発生していない。

本市への反映
（意見・課題
など）

井村：あま市においては市民病院内の施設の一つとして病児・病後児保育室が開設されているが、背景には市民病院が新規移転の際に、職員に実施したアンケート結果より職員のための院内保育園の開設が不要と判断され、「病児・病後児保育室」の開設が想定外の時期に実現したとのこと。また、当初、利用定員は 6 名であったが、5 年後に民間病院内に病児保育室が開設され、令和 4 年度より利用定員を増やしたことから現在では 3 名となっているが、市内全域での受け入れ定員数には変わりがないとのことである。公民が互いに連携を図り、市内のニーズに対して応えていると感じた。ただ、専任の保育士や看護師の確保も課題であることから、そういった状況も踏まえつつ、岡崎市民病院内に本年 4 月に開所した託児所「あいあい」での院内病児・病後児保育室の開所について、あま市を参考に提案していきたい。

加藤：働き方改革や女性活躍社会において、共働き家庭は増加しており、子どもの突発の病気に対応してもらえる病児・病後児保育のニーズは高いと感じる。あま市においては、市民病院内に病児・病後児保育室があり、また民間でも 1 か所開設しているとの事。利用方法についても、登録申請（年度更新）が必要ではあるが、緊急の場合は、当日の登録申請も可能となっており、柔軟な受け入れ態勢となっている。本市においては現在、民間 1 か所のみでの開設となっていることから、受け入れ態勢の

充実を図るべく、あま市の市民病院内での院内病児・病後児保育室のような施設を岡崎市民病院でも開設する必要性を感じる。



ご説明いただいた、あま市子ども健康部 吉川部長（右）、子ども健康部保育課
林課長（中）、伊藤主幹（左）